

被爆アオギリ3世を植樹する夢が丘中学校の生徒ら＝新温泉町湯



夢が丘中生が種から育てた苗木

新温泉

平和の尊さを後世に伝える「被爆アオギリ」の3世が、新温泉町の湯村温泉観光協会に寄贈された。夢が丘中学校（新温泉町細田）の3年生らが校庭の2世に実った種から育てた苗木2本で、生徒代表が鉢に植えて春木川沿いの町道に設置した。

被爆アオギリは広島県の原爆投下時、爆心地から約1・3kmの旧広島通信局にあった。熱線と爆風で幹の半分がえぐられたが新芽を出し、1973年に平和記念公園に移植された。その種から成長した2世の苗木が広島市から新温泉町に贈られ、うち1本が同校に植樹された。2019年ごろから花が咲いて種を実らせ、生徒らは3世を育てながら平和の大切さへの理解を深めている。

荒湯近くのポケットパークに苗木を持ち込み、生徒会の2人と同協会の朝野泰昌会長らが根に土をかけた。同校出身の高校生も駆けつけて見守った。生徒らは、ほかに町内の2地区でも植樹した。

同校生徒会長の朝野良輝さん(15)は「多くの人が平

被爆アオギリ3世植樹

湯村温泉街の町道沿いなどに

和のために行動するきっかけになればうれしい。新温泉町同協会の朝野会長は「本当に大切なものをいいたい。多くの方に見ていただけるよう努力したい」と話した。（伊藤颯真）